

# 日機装純利益71.6%増

## インダストリアル好調

25年12月期

宮崎日機装（宮崎市高岡町、竹田浩之社長）の親会社・日機装（東京、加藤孝一社長）は13日、2025年12月期連結決算（国際会計基準）を発表した。売上高に当たる売上収益は前期比1.1%増の2156億4200万円、営業利益は約2.4倍の153億3100万円。純利益は71.6%増の136億5200万円だった。いずれも過去最高を記録した。

主要事業別の売上収益はインダストリアル事業が4.5%増の1170億7700万円。液化天然ガス（LNG）分野の設備投資需要が拡大基調にあり、米子会社の売上収益が増加。産業用ポンプ・システムで

は事業構造改革が奏功し大幅増益となった。航空宇宙事業は12.6%増の195億7900万円。航空機産業の需要回復を背景にした業界全体の増産に伴い、宮崎日機装でも製造している主力製品の力スケードなどの出荷が増加した。

メディカル部門は5.3%減の788億9100万円。血液透析装置は中国市場の需要回復、欧州の販売拡大などで海外は増収。一方、国内は医療機関の設備投資意欲の鈍化が響いた。期末配当は1株当たり4円増配の22円とし、年間配当金は40円となった。26年12月期の連結業績予想は売上収益が2335億円、営業

利益は165億円、純利益130億円を予定している。また13日は26年から3年間の新中期経営計画を発表。28年に売上収益2700億円、営業利益220億円、自己資本利益率（ROE）9.0%以上を掲げた。

宮崎日機装の竹田社長は「航空機に関する需要が第3、第4四半期に伸びた。製造現場として効率化に努

め自動化などの体制も整えながら納期厳守、高品質な製品作りを進める」と話している。（湯田光）

### 期末3円増配

26年12月期

日機装は13日、2026年12月期の期末配当予想について、1株当たり3円増配の25円とし年間配当金は50円とすると発表した。